

中学校 3年 社会科 (公民)

考える
想像する
表す

話す・聞く
読む

育成したい
国語力

聞き手の疑問の背景を理解して話したり、話された内容について多様な視点から吟味し、疑問点を深めながら聞く。資料の情報から現状を読み取り、過去との関連性を考え、将来の変化を予測し、自分の考えや判断に生かす。

単元名 「大量消費社会の出現」

単元の目標

- ・耐久消費財の普及が、人々の生活をどのように変化させたかについて、各自が調査し、グループごとにまとめる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・耐久消費財の普及が、日本の社会や生活をどのように変化させたかについて理解する。
(社会的事象についての知識・理解)
- ・モノが社会を変化させることを理解し、その変化には負の側面があることにも気付かせる。
(社会的な思考・判断)

単元の流れ

第1次(本時)

・高度経済成長期における耐久消費財の普及が、人々の生活をどのように変化させたかについての調査の準備をする。

第2次

・各自の調査をもとにグループごとにまとめる。
・様々なモノが社会を大きく変化させることを理解する。
・歴史学習で既習の「モノが社会を変化させた例」から現代の情報化社会における社会の変化についても考える。

本時の目標

高度経済成長期に、耐久消費財が普及し、人々の生活を変化させたことを理解する。
(社会的事象についての知識・理解)

視点①

自分の経験や知識と結び付けて課題を読み取り、考える力をはぐくむことができます。

視点②

調査用ワークシートの作成を通じて、自分の知識につなげながら話を聞き取り、考える力をはぐくむことができます。

本時の流れ

導入

身近な耐久消費財を見て、それがいつ頃家庭に普及したのかを考える。

展開1

主な耐久消費財の普及率の推移のグラフを見て自分たちが生まれた頃に、どのような耐久消費財が普及していたかをグラフから読み取る。

展開2

社会のどのような出来事と関連して推移しているかについて話し合う。
高度経済成長との関連性を理解する。

展開3

調査用ワークシートを作成する。
耐久消費財の普及が家庭生活や社会をどのように変えたかについて考える。
大量消費社会がもたらした負の側面についても考える。

まとめ

現代社会が大量消費社会であることを理解し、今後、様々な現代社会の諸問題について学習することを知り、現代社会に対しての興味・関心を高める。

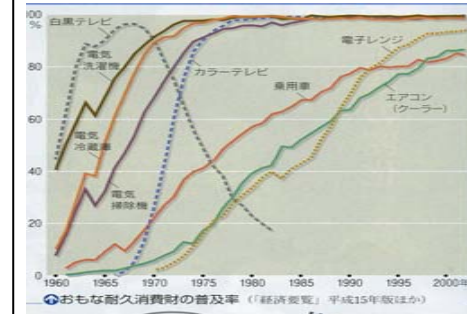
国語力育成の視点

資料から社会の変化や現状などを読み取り、過去との関連性を考え、将来の変化を予測することにより、資料を様々な角度から読み取ろうとする意欲や考える力をはぐくむことができます。また、各自が聞き取り調査をすることにより、自分の知識につなげながら話を聞き取ったり、各自の調査をもとにグループでまとめたりすることにより、話された内容について多様な視点から吟味し、疑問点を深めながら考える力をはぐくむことも期待できます。
これらのことにより、「現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」という公民的分野の目標を達成する一助にもなります。

教材等の例

()組()番
氏名()

資料 主な耐久消費財の普及率



東京書籍「新編 新しい社会 公民」

何が誰の何をどう変えた?

誰...[]
耐久消費財...[]
家庭にあらわれた時期...[]
何をどう変えた?(メリット・デメリットともに)